

北見武道通信

令和7年6月26日 00749号

編集者:佐藤寿春

北見市幸町8丁目4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

URL <http://www.kitamibudokan.org/>

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

ニュースレター【事務局情報】「出口クリスタ金メダリスト」特別柔道教室！

令和7年6月28日(土)9時00分～12時00分迄 北見市武道館で2024年パリオリンピック柔道競技女子57kg級金メダリスト「出口クリスタ講道館柔道五段」が講師で「特別柔道教室」を開催されることになりました。この「特別柔道教室」の主任講師村山洸介講道館柔道六段・全日本柔道連盟専属コーチ(長野誠心館道場館長)の「柔道のはなし基調講演」も予定されています。(佐藤)

グーパー(短編小説)

グーを出し、パーを出し、またグーを出す。

目の前の赤子は、自分の手が自分の意のままに開くのが面白いと見えて、先ほどこらずっとその動作を繰り返している。

自分はその様子を、頬杖をつきながら眺めている。

「あんなものが、面白いだろうか」

眺めているうちに赤子の動きにつられて、自分は自分の手に目をやった。

グーを出す。パーを出す。またグーを出す。

あるのは確かに自分の手だ。そのまましばらく、意味もなく手の開閉を自分はやった。

グーを出す。パーを出す。

自分はその開いた手を、何の気なしに赤子の頭にあてた。赤子は嬉しそうに、無邪気に笑った。

自分は赤子の頭をなでてやる。赤子ははいよいよ笑う。

「お前もいつかは、人になるのだな」

自分は頭から手をはなし、グーを作ってから、その手で赤子にまた触れた。(ゆいか)

連載 連載「武道宝鑑」第2弾 磯貝 一 <柔道指導の心得>

第2弾は、磯貝一(いそがいはじめ)大日本武徳会柔道範士・講道館九段(当時。後講道館十段1871～1947)の、<柔道指導の心得>をご紹介します。(序文)1

柔道指導の任にあたる者は誰も立派な柔道の体得者を養成したいと考えている。即ちその技術は勿論、その精神に於いても柔道の真髄を会得し、世の中に出て国家人類のために尊き働きをする人を養成したいとの念願のもとに指導しているに相違ない。若し柔道の指導者として此の希望念願が無かったなら、夫れは先ず第一に柔道指導者たる資格なきものといわねばならぬ。もとより自分自らの修養を反省すれば、その修養の不完全なる事に気付き、人を指導する資格などないと考えざるを得ない。然しながら柔道の修行に於いては、自分自身の修行が不完全でも、兎に角一日の長という意味に於いて、乃至また後進の人の修行を助けるという意味に於いて指導するのである。が、者は考えようで、自分の修行が不完全という事に気付けば、自分自からも亦修養しようという念が勃然として起り、後進と共に自分もまた向上しようと勉めることになる。その氣分と努力とはおのづから後進の人を指導する上に非常に役立つことになる。つづく

